

口紅と花束で上機嫌

北川イシさんの100歳をお祝い

北川イシさんが2月25日、100歳の誕生日を向かえ、入所する特別養護老人ホーム和光苑（宇部キサ子苑長）を山内隆文市長が訪れました。山内市長から祝い金10万円と祝い状が、5男の良吉さん、啓子さん夫妻と施設の職員から花束が贈られました。啓子さんから口紅を塗ってもらったイシさんは、肌つやも良く、上機嫌の様子。良吉さんは「若くして亡くなった、母（イシさん）の両親の分まで、長生きしてくれている」と優しく見守っていました。



イシさん(右)は花束がお気に入り

- ▶寒さなか吹き飛ばす園児たちの踊り。訪れた人たちからたくさんの拍手が寄せられていました
- ▼懐かしい駄菓子がいっっぱい！子どもだけじゃなく大人も興味津々！



街なかでひなまつり

歴通路広場でまつり開催

市観光交流センター「風の館」、物産館等「土の館」など（総称「やませ土風館」）が4月8日にオープンするのを前に3月2日、歴通路広場で「ひなまつり」（街の駅・久慈主催）が開催されました。国道281号とやませ土風館を結ぶ広場には、市日組合の店舗や平庭市、駄菓子屋など10店以上が出店。八戸高専が開発した、海女の素潜りを仮想体験できるゲームや、北限の海女をキャラクターにしたオリジナルクッキーなどが注目を集めていました。そのほか、門前・畑田・川貫保育園児が、ひなまつりの歌や踊りを披露。訪れた人たちが足を止めて温かい拍手を送っていました。

また、まつりに協賛する商店街では、ひな人形や久慈秋まつりの写真が飾られたほか、北限の海女に関連した商品（生ウニ丼、こけし細工、清酒など）を販売するなどして、まつりムードを盛り上げていました。

とりどり鍋でほっかほか

三陸鉄道で鍋列車を運行

三陸鉄道の沿線市町村に立ち寄り、ビール片手に名物鍋を食べて、心も体もほっかほかにあったまろうーという企画列車が2月24日



おいし〜い！心も体もほっかほか

運行しました。今年初めて開かれたこの企画列車には県内外から約50人が乗車。乗客には、久慈駅でのまめぶを皮切りに、陸中野田駅、普代駅などで計4つの鍋が次々に提供されました。

夫婦で参加した田辺勤さん（川貫）、日出子さんは「まめぶを初めて食べたが、甘くておいしかった。また乗ってみたい」と笑顔を広げていました。

車両整備し決意新た

市消防団に消防車両を交付

久慈市消防団（谷地哲也団長）への消防車両交付式は2月29日、市防災センターで行われ、13、14分団（山形町）に消防ポンプ自動車、5分団1部（小久慈町）と12分団4部（門前）に小型動力ポンプ付積載車が交付されました。これらは、石油貯蔵施設立地対策交付金を活用して交付されたもの。山内隆文市長が「性能を発揮するよう日々の研さんに努めて」とあいさつ。谷地団長が「市民に消防防災の大切さを訴えていきたい」と決意を述べました。



新品の車両が披露されました

自宅でもやってみたい！

手作りみそ道場を開催



昔ながらのみそ作りを一から教わります

久慈市生活研究グループ連絡会（川口キクエ会長）が主催する手作りみそ道場が2月18日、和野伝承館（宇部町）で開催されました。市内からの参加者約35人のほか、宇部保育園（松原たえこ園長、園児35人）の年長組7人も参加しました。この日行ったのは、豆をつぶしてまぜ、寝かせるまでの作業。初心者も多く、会員からの指導を受け、作業を進めました。みそは、保存され、約10カ月掛けて熟成されます。

みそ作り終了後は、昨年の道場で作ったみそを使ったみそ汁やおからなどを試食。越廻保子さん（寺里）は「手作りみそは健康に良いと思うので、自宅でもやってみたい」と意欲を見せていました。

知識と経験で問題解決を

「たっそ知事と語ろう」を開催

達増拓也岩手県知事を招いて、県北・沿岸の振興に必要なものは何かを考える「たっそ知事と語ろう」が2月22日、市内のホテルで開催されました。達増知事が講演し、民間と行政の連携の重要性を訴えました。また、主催者であるNPO法人やませデザイン会議の貫牛利一議長、（社）久慈青年会議所の細谷地茂陽理事長と達増知事によるトークセッションでは、この地域でしかできないものとは何かをテーマに討論。達増知事は「久慈地域を含め、県内には山も海もあるが、“これ”という決め手がない。さまざまな人がまちづくりにかかわり、知識や経験を結集させることで、これらの問題を解決できるのでは」と提案しました。



「今日は地域の団体が集まる絶好のチャンス」と達増知事（中央）

ワカメで触れ合う

夏井小でワカメ給食の日



三陸のワカメは最高だね〜！

地元で採れたワカメ入りの給食を食べて、地元食材の良さを知ろうーという、ふれあい給食の日は2月26日、夏井小学校（中居正行校長、児童43人）で開かれました。この日は、3〜4年生13人の教室に、生産者である市漁協夏井生産部長の林崎三男さん、市漁協の浜欠政幸さんなどが出席。児童たちは、ワカメのユズ風味あえなどを食べたり、ワカメのクイズに答えたりして、楽しみながら理解を深めていました。

清水彩花さん（4年）は「うちでもワカメがよく出る。みそ汁が特に好き」、林崎さんは「三陸ワカメの良さを知ってもらった。自分も初めて給食を食べられたのでうれしい」と交流を楽しんでいました。